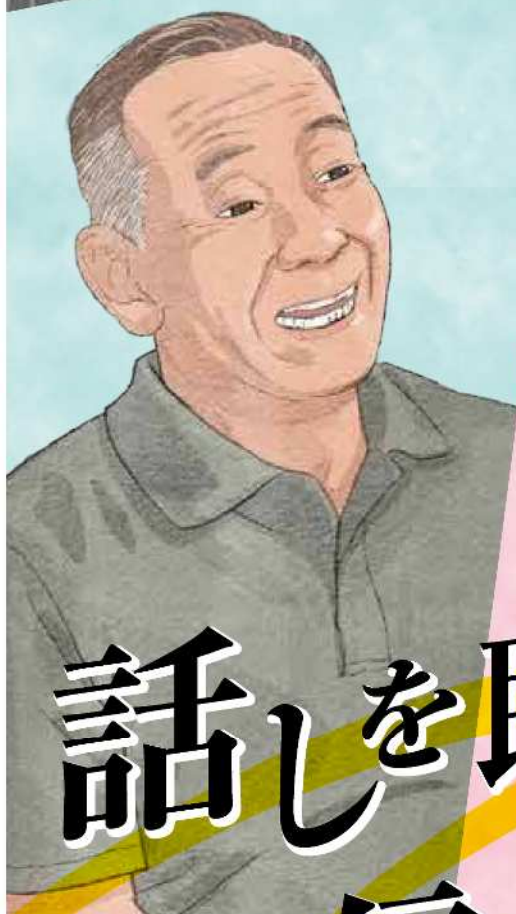
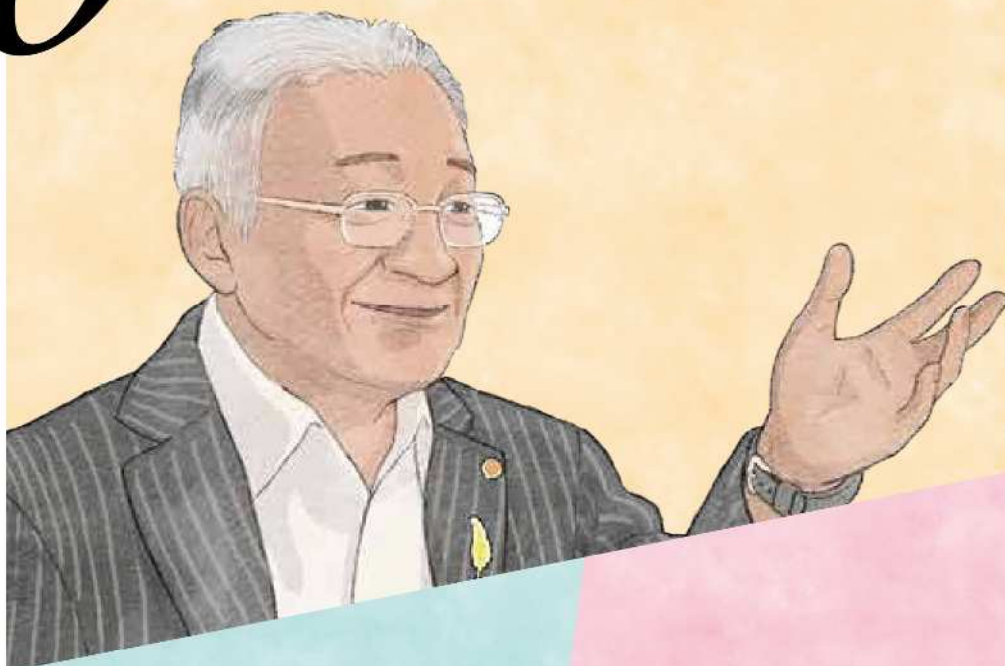


10²⁰²⁶
Oct

KAN No. 247

TAKI



話を聴く
信じて待つ

話を聴く。信じて待つ。

― 立ち直りを支える保護司 ―

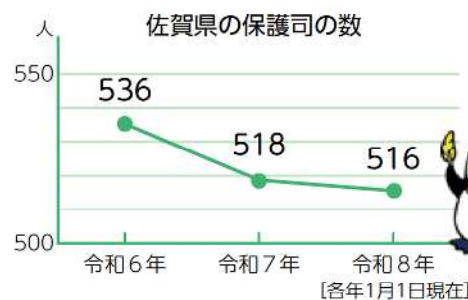
過ちを犯した人も、罪を償った後は、社会の一員として地域に戻って暮らします。その再出発に寄り添い、立ち直りを支えているのが「保護司」です。身近にありながら、意外と知られていないその活動を紹介します。

保護司とは

犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える民間のボランティアで、全国に約45,000人が活動しています。保護観察官と協力しながら、対象者の生活指導や相談援助を行います。神埼地区(神崎市・吉野ヶ里町)には30名が在籍しています。

保護司の人数

佐賀県内の保護司の数は、年々少しずつ減少しています。今年度は定数550人を下回る516人となっており、保護司の担い手不足が課題となっています。



主な活動

■生活についての相談や助言

対象者と定期的に面接し、生活や仕事について相談に乗りながら、健全な社会の一員となるよう支援します。

■社会復帰に向けた環境づくり

施設を出る前に、住まいや仕事など社会復帰の準備を整えます。引受人や家族との連携も大切な役割です。

■犯罪や非行を防ぐ地域活動

地域でのイベントや広報紙の発行など、犯罪や非行を防ぐ啓発活動に取り組みます。

■社会を明るくする運動

犯罪や非行のない地域を目指し、一人ひとりが立ち直りや支え合いについて考える、全国で行われている運動です。神埼地区では「脊振町わんぱくまつり」や「城原川ハンギーマつり」などで広報活動を行いました。



保護司になるには

保護司として活動しているのは、主婦の方・会社勤めの方・退職された方などさまざまです。特別な資格は必要なく、それぞれの経験や立場を活かしながら地域で活動しています。

保護司の役割

地域に暮らす保護司だからこそ、対象者の日常に寄り添い、孤立させず見守ることができます。保護観察官と連携しながら、地域ならではのきめ細かな支援を担います。



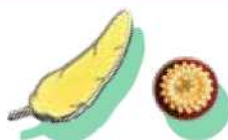
任期

任期は2年で、再任の制限はありません。新任・再任の委嘱は76歳未満が条件ですが、希望により78歳の前日まで再任が可能です。

待遇

保護司は、給与の支給を受けない非常勤の国家公務員です。活動に必要な交通費や通信費、面接にかかる費用などについては、一定の範囲で国から費用が支給されます。

バッジと手帳



円形は「人の和」を、紅い布地は「人々の心や感情」を表す、保護司である身分の証。



更生保護に関する制度や資料などがまとめられており、職務を行う際に携帯します。



神埼地区 保護司会 会長

なかしま かずよし

中島 和好さん

保護司歴15年目

ひらかた み な こ

平方 美奈子さん

保護司歴12年目

いしい ひさ き

石井 久起さん

保護司歴23年目

保護司になったきっかけ

中島さん：法務省関連の仕事に携わっていたので、定年して佐賀に帰ったら保護司をやろうという気持ちにはありました。ただ、自ら進んでなる人は少なく、多くは誰かに背中を押してもらうんですよ。

石井さん：私は先輩の保護司に声をかけてもらいました。保護司になる前に、更生を目指す人を自分の会社でアルバイトとして受け入れた経験があり、何か手助けができるならと、悩んだけれど引き受けました。気がついたら20年以上、活動を続けています。

平方さん：私も市役所で勤務していたときに、保護司のみなさんと顔見知りになって、定年と同時に誘っていただきました。自分にできるのかと不安はありましたが、これまでお世話になった皆さんへの恩返しの思いもあり、引き受けることにしました。保護司になってからは、辞めようと思ったことは一度もないですね。

中島さん：なかなか手がないのに、保護司になった人はほぼ辞めない。それがこの活動の本質であるような気がしています。



活動を通じて感じること・やりがい

平方さん：対象者は、家族との関係性が薄く、話す相手がいない方が多いんです。面接では、とにかく相手の話をよく聞くこと。それが一番大事だと思っています。

石井さん：面接を重ねて、保護観察期間が終わった後のことが気になるものです。かつて関わった子が、仕事して家族もできたよと遠回りに聞いたときはほっとしますよ。関わった子のほとんどは、きっとちゃんと歩んでいる。そう信じながら続けています。

中島さん：住まいも仕事も不安定で、周囲の偏見もある中で社会復帰を目指すには、ちゃんと相談できる大人が近くにいることの大切さを痛感します。初めての面接では、目を合わせてくれない子もいます。そんなときは、笑いを引き出すことを意識すると、ふっと前を向いてくれることがあるんです。対象者と向き合うことが自分の人間形成にもつながり、何歳になっても成長できると気づかされています。



地域に広がる活動

平方さん：保護司会では、女性ならではの活動にも取り組んでいます。望まない妊娠が犯罪につながるケースもあることを知り、勉強会に参加したり性教育について学んだり。犯罪の根っこには家庭環境があると感じているからこそ、広報紙「かささぎ」の発行など、予防活動にも力を入れています。

中島さん：毎月定例会を開いて、活動報告や事例研修を行っています。今は複数の保護司で面接にあたることも増えて、互いの経験や気づきを活かし合えるようになりました。自分の経験を仲間に伝え、逆に学ぶ。そのつながりが活動を続ける力になっています。

地域みなさんへメッセージ

平方さん：偏見で見るのではなく、みなさんに温かい目で見守っていただけたら。それだけで、対象者にとって大きな支えになります。

石井さん：以前に比べて、保護司の活動はずいぶんオープンになりました。市民向けのトークイベントなど、新しい取り組みも増えています。身近な地域にこういう活動があると、まず知っていただきたいですね。

中島さん：更生保護を支える活動を地域の方々に知ってもらうことが、新たな犯罪の被害者も加害者も生まないことにつながると信じています。これからは広報活動やイベントなど、表に出る取り組みをさらに展開していきます。ぜひみなさんも一緒に参加してみてください。



保護司になりたい方を募集しています！



「地域のために何かしたい」
「誰かの力になりたい」
—そんな思いを、保護司の活動につなげてみませんか。保護司に興味がある方、活動内容や任期など詳しく知りたい方は、ぜひお問い合わせください。



神埼地区保護司会



全国保護司会連盟

8/9

はじめてのパパ・ママ教室を開催しました

千代田町保健センターで、7組のご家族が助産師による個別指導や助言を受けながら、赤ちゃんを迎えるためのさまざまな体験を行いました。

参加者は沐浴体験をはじめ、赤ちゃんの着替えや抱っこ、オムツ交換などのお世話に取り組んだほか妊婦体験も行い、出産後の生活をイメージしながら夫婦で一緒に楽しく学びました。

参加者からは「育児への不安が解消された」「夫婦一緒に参加できて本当に良かった」などの声が寄せられ、参加者にとって有意義な時間となりました。



8/22・23

脊振の魅力親子で体験！山村留学体験

県内外の幼児・児童とその保護者を対象に「山村留学体験活動」が行われ、10人の子どもと8人の保護者、計18人が参加しました。

学校見学では、脊振小・中学校の児童・生徒が学校生活の楽しさや脊振の魅力を紹介しながら校内を案内しました。参加者は、児童・生徒や校長先生の説明に耳を傾け、学校の雰囲気を感じていました。

また、竹細工やプール遊び、野菜収穫など、自然豊かな脊振ならではの体験を楽しみました。体験活動の後には「脊振町わんぱくまつり」にも参加し、祭りや花火を楽しむなど、親子で脊振の自然や地域の魅力を満喫しました。



8/22

脊振町わんぱくまつり 高取山公園で開催

脊振町わんぱくまつりが高取山公園で開催され、多くの家族連れでにぎわいました。

当日は、特産品や露店が並んだほか、消防音楽隊やバンドの演奏も披露され、会場は大いに盛り上がりしました。

また、脊振中学校の生徒が進行を務めた「ラムネ早飲み競争」では、子どもたちが競い合う姿に大きな声援が送られました。

祭りの最後には、和太鼓の音が響く中、色鮮やかな花火が夜空を彩り、訪れた人たちを楽しませました。



9/5

城原川でハンギーまつり開催

第17回城原川ハンギーまつりが千代田町の城原川親水公園「水辺の楽校」周辺で行われました。

猛暑対策で初めて9月の開催に。ヒシの実を収穫する木製のハンギーを漕いで競う5部門に約320人が出場し、全力でゴールを目指しました。

開会式では江頭鷹文実行委員長が「夜の花火までみんなで盛り上げましょう」と呼びかけ、市商工会青年部の古川論さんが「全身全霊で漕ぎ続けることを誓います」と宣誓。「次郎っ子ハンギー」「菱むすめハンギー」などのリレー競技には、県内外のチームが出場し、衣装やパフォーマンスでも盛り上げました。夕方からはステージイベントや打ち上げ花火も行われました。



8/30

消防団フェス2026 日の隈公園で開催

消防団の魅力を知ってもらおうと日の隈公園内で『消防団フェス2026』が行われました。

西九州大学の災害ボランティア団体「OKBASE」による組みひもづくり体験や女性消防団員によるかき氷のプレゼント、消防団第3分団バンドの演奏などがあり、多くの親子連れでにぎわいました。

また、神埼清明高校美術部員と神埼高校書道部員がデザインした「神埼市消防団Tシャツ」がお披露目されました。



9/5

健康マージャン大会開催

第1回よらんね神埼健康マージャン大会が神埼市中央公民館で開かれ、10代から90代までの56人が出場して腕比べをしました。

日ごろ健康マージャン教室を開催している、神埼市のボランティア団体「よらんね神埼」が、交流の輪を広げようと大会を実施。

1局90分で相手を変えながら3局合計で点数を競い、大学生の宮田煌久さんが初代王者に輝きました。

出場者からは早くも「次も出たい」との声が上がっていました。

